

平成29年度岩城少年自然の家第1回運営協議会 要旨

1 日 時 平成29年5月23日（火）午前10時から正午まで

2 場 所 岩城少年自然の家 小研修室

3 出席者

委 員（五十音順）

新目委員、大竹委員（会長）、加藤委員、金森委員、
喜田委員、東海林委員、四本委員

事務局

【生涯学習課】

佐藤副主幹（兼）班長、中田社会教育主事

【岩城少年自然の家】

小玉所長、新山副主幹（兼）班長、黒澤主任社会教育主事（兼）班長、佐々木主事

4 議事概要

(1) 開会

(2) 岩城少年自然の家所長あいさつ

(3) 生涯学習課あいさつ（佐藤副主幹（兼）班長）

(4) 出席者紹介

(5) 運営協議会会長選出

会長あいさつ

(6) 議事（議長：会長）

①報告

○岩城少年自然の家の運営について

○利用状況について

○施設設備の状況について

②協議

(7) 閉会

5 委員からの主な意見

・岩城に來れば自然と触れ合えることや様々な事業・催しを知らない県民はまだ多いので、いろいろな形で情報発信することが重要である。

・土日の事業に、障害のある子どもや親が参加できるものを実施してみては。

・以前より工夫を感じられる運営がされている。

・仮想と現実の区別がつかず、相手の痛みや気持ちが分からない子ども達が増加している中で、自然の家での体験は今後ますます大事になっていくと思われる。

- ・様々な活動を学校で周知させることは難しい。自然の家のホームページで参加申込が完結出来るようにすれば、利用者数の増に繋がるのでは。
- ・ネット依存対策はきめ細かく実践してほしい。また、アンケート結果についても一つ一つ改善してほしい。
- ・県立大学との連携や各種行事にも柔軟に対応してほしい。
- ・子ども達には秋田ならではの四季折々の変化に気づいてほしいが、保護者にもっとアピールしないと参加は難しいのでは。
- ・各種事業は、学校行事やスポ少等が忙しくなる時期と重なるため、参加者の増加は非常に厳しい状況である。事業のPR等は予算的に厳しい状況のため、ホームページや利用者の口づて等で地道にやるしかない。
- ・長期宿泊研修は、地元の学校以外は参加が厳しい。また、研修終盤の子ども達の疲弊への考慮も必要と思われる。
- ・雪の中を歩いて滝を見に行くのは、夏場とは違った風景と体験が出来る。
- ・岩城少年自然の家には「海」がある。四季を通じて海の活用をすべきでは。例えば、ハタハタを釣って食べる体験はどうか。
- ・岩城には県の施設が自然の家の他に二つある。消防学校や射撃場とタイアップした事業を実施してみてもどうか。